

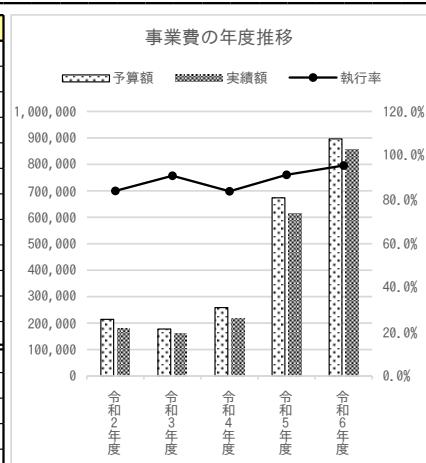
令和7年度 杉並区施策評価シートⅠ

施策	23 多様なニーズに応じたきめ細かな教育の推進	
分野	07 共に認め合い、みんなでつくる学びのまち	
施策担当課	特別支援教育課	関係課

施策目標	○すべての子どもが障害や疾病、家庭や学校での状況等にかかわりなく、自分の意思と特性・状態に応じて交流したり共に学んだりできる支援体制が充実しています。
	○すべての学校において、特別支援教育や教育相談に対する教職員の理解が深まり、子どもたちの多様なニーズに対して、早期に適切な支援へつなげることができます。
	○教育相談体制が充実し、学校内外において子どもや保護者が安心して相談できる環境が整うとともに、一人ひとりの状況に応じた支援が行われています。 ○家庭・地域・学校・関係機関と行政が各々の役割を果しながら連携・協働し、すべての子どもが地域社会に支えながら学び、成長しています。

指標名		指標説明		単位	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	目標年度 目標値
活動指標	学校生活支援シートの作成件数	特別な支援を必要とする子どもに、長期的に一貫して適切な支援を行うことを目的として作成する支援計画の数	件	計画	1,500	1,500	2,200	2,500	令和12年度 70%
	教育支援チームの訪問回数			実績	1,313	2,072	2,491	-	
				達成率	87.5%	138.1%	113.2%	-	
			回	計画	450	400	200	350	
				実績	345	196	349	-	
				達成率	76.7%	49.0%	174.5%	-	
				計画					
				実績				-	
				達成率	-	-	-	-	
成果指標	「一人ひとりの違いに応じた学び(個別最適な学び)ができる環境が整っている」と感じている児童・生徒の割合	区立学校の児童・生徒を対象とした質問紙調査による	%	計画	55	60	60	53	令和12年度
	分類 利用者満足度指標			実績	58.7	47.4	58.6	-	70%
	「一人ひとりの違いに応じた学び(個別最適な学び)ができる環境が整っている」と感じている保護者の割合			達成率	106.7%	79.0%	97.7%	-	
	分類 利用者満足度指標		%	計画	85	80	80	75	令和12年度
	学校の教育相談体制に対する保護者の肯定率			実績	76.8	66.8	63.5	-	95%
	分類 利用者満足度指標			達成率	90.4%	83.5%	79.4%	-	
	小中学校における特別支援学級・特別支援学校との交流・共同学習への保護者の肯定率		%	計画	50	55	55	46	令和12年度
	分類 利用者満足度指標			実績	49.9	37.8	39.2	-	70%
				達成率	99.8%	68.7%	71.3%	-	
	分類 利用者満足度指標		%	計画	70	40	50	56	令和12年度
				実績	40.3	38.2	44.4	-	85%
				達成率	57.6%	95.5%	88.8%	-	
	分類 利用者満足度指標			計画					
				実績				-	
				達成率	-	-	-	-	
	分類 利用者満足度指標			計画					
				実績				-	
				達成率	-	-	-	-	

		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
事業費	千円	予算額	214,200	177,624	258,545	673,582	896,340	1,785,847	事業費の年度推移
		実績額	179,851	161,354	216,645	614,748	855,885	-	
		執行率	84.0%	90.8%	83.8%	91.3%	95.5%	-	
人件費	千円	予算額	329,140	370,509	461,468	497,382	506,013	619,606	
		実績額	371,527	385,717	481,541	484,667	556,754	-	
		執行率	112.9%	104.1%	104.3%	97.4%	110.0%	-	
総事業費 (事業費+人件費)	千円	予算額	543,340	548,133	720,013	1,170,964	1,402,353	2,405,453	
		実績額	551,378	547,071	698,186	1,099,415	1,412,639	-	
		執行率	101.5%	99.8%	97.0%	93.9%	100.7%	-	
国・都からの補助金等	千円	予算額	20,729	29,433	74,354	90,490	274,296	260,012	
		実績額	27,148	30,372	75,307	125,223	177,451	-	
		執行率	131.0%	103.2%	101.3%	138.4%	64.7%	-	
総事業費伸び率 (予算額・実績額の対前年度比)	%	予算額		0.9%	31.4%	62.6%	19.8%	71.5%	
		実績額		-0.8%	27.6%	57.5%	28.5%	-	
人件費比率 (人件費÷総事業費)	%	予算額	60.6%	67.6%	64.1%	42.5%	36.1%	25.8%	
		実績額	67.4%	70.5%	69.0%	44.1%	39.4%	-	



特記事項
事業費が増加した主な理由は、令和6年度から済美養護学校の改修等工事が始まり工事費が増加したこと、校内別室指導支援員配置事業の全校拡大によりボランティア謝礼が増加したことなどです。

施策の成果	<p>令和6年4月から高井戸東小学校に特別支援学級(知的障害)を新たに開設したことで、児童の学習環境の充実や通学時間等の負担軽減につなげました。また、済美養護学校中学部等の移転に向け、工事に着手し、近隣住民に配慮しながら工事を進めました。</p> <p>教育支援チームの定例訪問を通じて、学校における学校生活支援シートに対する理解を促進しました。令和6年度は特別支援教室・特別支援学級を利用してない児童・生徒においても学校生活支援シートの作成が進み、学校において個に応じた指導の充実を図ることができました。また、定例訪問に加え、要請に応じて積極的に学校を訪問し、特別支援教育に関して各校のニーズに応じて支援ができました。</p> <p>就学前教育施設を対象とする教育支援相談の実施では、令和5年度よりも相談件数が増加し、より多くの相談事例に対して、教育的支援に関する助言を行いました。また、希望する園には相談後の施設訪問を実施することにより、特別な配慮を必要とする幼児の学びや発達の支援を行いました。</p> <p>教育相談では、児童・生徒の状況に応じて、教育相談員、スクールカウンセラーの配置日数を拡充し、心理的支援を強化するとともに、スクールソーシャルワーカー等を活用し、学校や関係機関と連携して支援を行いました。また、不登校児童・生徒をざんかステップアップ教室や地域の居場所等とつなげることで、社会的自立に向けた支援を行いました。さらに、校内別室を全校に設置し、教室以外の居場所づくりを拡充しました。</p>
-------	---

課題の分析	<p>全区立小中学校に特別支援教室を設置して6年が経過しましたが、特別支援教室を利用する児童・生徒は、毎年増加しています。また、学校生活支援シートの作成件数も増えており、校内支援体制の整備が急務となっています。今後も、児童・生徒一人ひとりの教育的ニーズに応じた多様な学び方が在籍の学級でも充実できるよう、学校の実情を踏まえながら通常学級支援員や介助員ボランティアなどの配置を着実に行うとともに、「個別の学び支援システム」等を活用した学びの内容、教育支援の充実を図っていく必要があります。</p> <p>また、児童・生徒が自分の長所や可能性を認識するとともに、他者を尊重し、多様な人々と協働しながら学習に取り組めるよう支援する必要があります。1人1台専用タブレット端末を効果的に活用しながら、個々の児童・生徒に応じた指導及び指導方法の工夫（個別最適な学び）や、他者と意見を共有しつつ協働して学習を進める（協働的な学び）ことに取り組みます。</p> <p>特別支援学級・特別支援学校との交流・共同学習の推進については、教育委員会として済美養護学校と各学校の特別支援教育コーディネーターの連携を推進し、副籍交流の充実を図ることが必要であり、推進することでより一層保護者の理解を得られるよう努めていきます。</p> <p>教育相談については、不登校の未然防止、不登校及びその傾向のある児童・生徒の早期発見・早期対応のため、学校や関係機関との連携が必要です。そのため、学校で教育相談の役割を担う教育相談コーディネーターを中心としてスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーと連携した支援を進めます。また、不登校児童・生徒の居場所づくりの充実のため、ざんかステップアップ教室の児童・生徒を対象とした仮想空間上の居場所であるバーチャル・ラーニング・プラットフォーム（VLP）の内容検証、個別の相談支援等の強化、学びの多様化学校の設置準備を着実に進めていく必要があります。</p>
-------	---

今後の施策の方向性	拡充
改善・見直しの方向 中長期 今後の進め方	<p>特別な支援を必要とする子どもが増加している現状を踏まえると、一人ひとりの特性に応じた支援及び教育環境の整備をより一層、充実させていく必要があります。</p> <p>学校や教員に対しては、教育支援チームの派遣等を通じて個に応じた指導の充実を図るとともに、「個別の学び支援システム」を活用することで、教員の専門性の向上や負担軽減にもつなげていきます。</p> <p>合わせて、通常学級支援員や特別支援学級（学校）介助員を学校の実情を踏まえながら適切に配置し、介助員ボランティアや付添介助者については、より活用しやすい制度の構築に向けた検討を進めるなど、支援体制を充実していくことで子どもたちのより良い教育環境を作り出します。</p> <p>また、特別支援教育課と済美教育センターが連携し、児童・生徒が主体となって探究する教育活動を、研修等を通じてより一層推進することで、各校において多様な子どもたちを包括する教育課程の編成を図ります。また、通常の学級の教員向けの特別支援教育に関する研修について、内容を充実させ、特別支援教室と在籍学級間において切れ目のない支援の実現を図ります。副籍交流については、Logoフォームや校務システムを活用し、情報共有の方法を改善することで、実施時期や内容の改善を図ります。</p> <p>不登校対策については、複数の事業で構成され、類似の事業もあることから、役割や目的を整理し、全体を俯瞰した事業の見直しに取り組んでいきます。</p> <p>なお、不登校児童・生徒の学びの場・居場所づくりも不登校児童・生徒一人ひとりの特性に応じた対応が必要であることから、「学びの多様化学校」の設置に向けて準備を進めていきます。</p>

令和7年度 杉並区施策評価シートⅡ（施策を構成する事務事業）

【施策 23】 【施策名称 多様なニーズに応じたきめ細かな教育の推進】 ※金額の単位は千円

整理番号	事務事業名称	実行計画事業 主要事業	令和6年度事業費	人件費	総事業費	施策から見た事業の方向性
1	434 杉並区教育委員会の運営	○	22,583	64,182	86,765	現状維持
2	442 特別支援教育	○ ○	197,583	143,443	341,026	推進（拡充）
3	447 特別支援学級・学校の環境整備	○ ○	333,466	44,605	378,071	推進（拡充）
4	455 教育相談等運営	○ ○	37,302	281,130	318,432	推進（拡充）
5	461 いじめ対策の充実	○ ○	537	5,733	6,270	推進（拡充）
6	464 済美教育センター環境整備	○	261,675	10,011	271,686	縮小（廃止）
7	470 小学校障害児就学奨励		1,250	3,825	5,075	現状維持
8	481 中学校障害児就学奨励		1,489	3,825	5,314	現状維持
9	以下再掲事業の評価表					
10	459 就学前教育					
11						
12						
13						
14						
15						
16						
17						
18						
19						
20						
21						
22						
23						
24						
25						
26						
27						
28						
29						
30						
31						
32						
33						
34						
35						
36						
37						
38						
39						
40						
41						
42						
43						
44						
45						
46						
47						
48						
49						
50						
合計			855,885	556,754	1,412,639	

施策を構成する事務事業に関する特記事項	「特別支援学級・学校の環境整備」について、済美養護学校中学部の工事が今年度で完了することから、事務事業評価シートの事業コストの方向性については「縮小」としています。一方で、中長期的な視点でみると、自閉症・情緒障害特別支援学級の設置や知的障害の特別支援学級の増設の可能性があることから、施策から見た事務事業の方向性については「拡充」しています。
---------------------	---